

2 「ボケを恥だとは思わない」

ここは大分県と福岡県境にある神秘的な地名の「夜明（よあけ）」。そのあるお寺の奥さんから頂いたお便りを、七年前だのに、今も感動とともに思い出す。手紙の主は佐藤蘭女さん。姑（しゅうとめ）さんのご逝去を知らせたものです。

初めに、姑さんの悲しい晩年がつづられています。「母は清潔というものを全く置き忘れた人のようになり、拾って食べたり、トイレでない所に排便したり、自分で何一つしようとせず、生きることを放棄してしまったような感じでした」。

私も面識のあるご母堂は礼儀正しく、一見して賢婦人の典型を思わす方でした。それだけにボケられた痛ましさが、文脈の中に次々とうかがえ、胸が痛みました。

「昼は眠って夜覚めて何度も起こされると、少しはガマンしてよ、私もお勤めがあるのよ、とケンのある言葉でたしなめました」「夜は姑の手と私のを一本のひもで結びあって寝ていても、上手に解いて外に出るといふありさま。かつては婦人会長をして信望厚かった母、自分を一つひとつ教え導いて下さった恩を思う時、言ってはならない自分の言葉に己が身を責めます。思ってはならない思いをふり捨てきれません」。お便りは、心の痛苦に耐えられぬ悲鳴にも似た言葉で終わっています。

「……でもね、先生。一人で入れなかったおふろに母を抱いて入った時、母が『今度生まれてくる時も、親と子だといひね』とボケた頭で言ってくれた時は『母がいなかったらどんなに楽だろう』と時折考えた私は、死にたいほど自分がいやになりました——」。

ボケていく人、世話をする家族、たしかにここにはそれぞれの人間苦が厚く沈澱しています。しかし、その人間苦の真ただ中を貫いて、お二人の人間であることの崇高さが輝き渡っています。

「今度生まれてくる時も親子でいたい——嫁の辛苦に報いるのにこれ以上の言葉がありませんか。ああ、重く重くただボケていく苦しい旅の道中で。

嫁、また「死にたいほど自分が嫌になった」と、自分のみにくさを責めています。しかし、嫁の尽くす孝養が母のこの尊い言葉を発する機縁です。親鸞上人は、人間の愛すべて「末通らぬ」ものと言っています。善行にみえても、中途半端で不純なものがまじっているとの指摘です。

嫁の末通らない母への行ないをさながらに、高く救いあげているのが姑の心です。嫁姑それぞれが末通らぬままに、お互いを補い生かしあっています。その営みだけが、人間のないうる唯一の道かもしれません。

佐藤さんに、電話でお手紙の一部を公開してよいですか、とお尋ねしたら、即座に「私はボケを恥ずかしいと思いません」。凜乎（りんこ）たる声に、私

は目が覚める思いでした。嫁の心を貫き、私たちの魂を揺さぶる「今度生まれ
てくる時も……」の言葉には、もう一つ重要なことがあるのです。ご母堂の心
の奥深くに、今度生まれるという未来への明確な信頼があるということです。
来世が信じられる、これこそが人間最高の境地です。ボケへ、と深く沈潜して
ゆくがごとくみえていても、自分の老いと死をかくも穏やかに受容されてい
る。さすが、お寺を守り続けられたご生涯だけあって、その結実は見事です。
真実、往生の前には、ボケということがいかに軽く、何でもないということ
を、私たちに教え続けています。

また、最後まで残る感情面を大切にし、快（よろこび）の感情をみたま（任
運）ぼけさんのおせわ25カ条・6）ことの大切さを、無言のうちに、私たちに
訴えていると思われてなりません。

〔付〕――

ぼけさんのおせわ25カ条

ぼけさんが困った行動をするのは、私たちのおせわの仕方に問題がある、と考えま

す。任運荘ではおせわ25カ条を定めて努力しています。ほけさんの平安のために、また、おせわする人の重荷を軽くするために。

一 人格の尊重（受容とスキンシップ）

- 1 話す時はゆっくりと、礼儀正しく。
- 2 決して「いけません」と否定しない。
- 3 説得せず、時間をかけ相手の心にそうようにする。
- 4 子供扱いなどして、人間としての誇りを傷つけない。
- 5 本人の出来ることを認め、ほめる。
- 6 最後まで残る感情面を大切にし、快よろこびの感情をみtas。
- 7 手を握るなど、身体に触れて、心を落ちつかせる。
- 8 話し相手をし、聞き上手になる。
- 9 一日の行動を理解すると、おせわも一定の型になり楽になる。
- 10 本人の前で、「ほけている」とか、問題行動を批評しない。
- 11 相手の立場にたって、なぜそうなのかをいつも考える。

二 清潔な生活環境（ひとらしくきれいにする）

- 12 おむつはぬれたらすぐ換える。
- 13 床ずれを作らない。
- 14 失禁を叱らない。声かけ、排泄介助を怠らない。
- 15 食事はベッドを離れて食卓で。
- 16 身辺に危険物を置かない。
- 17 世話する者の考えで、本人のものを勝手に片付けない。
- 18 夜は枕燈などをつけて明るくし、不安を与えない。

三 残存能力を保つために

- 19 頭を使う習慣から遠ざけない。
- 20 日、時などへの関心を持たず。
- 21 過去の思い出を大切にしていける。
- 22 気持ちの通じる友達をつくる。
- 23 骨折をさせない。
- 24 精神安定剤の服用には細心の注意を払う。使用中は心身の変化を観察し、医師と

25

の連絡を密にする。

食事はバランスのとれたもの。果汁や水分の補給は十分に。